

AIDS UPDATE

No.29 2002.2.4

広島大学医学部附属病院

エイズ医療対策室

内線2941 (輸血部長室)

Internet: www.aids-chushi.or.jp

地対協エイズ講演会

～エイズの医療はどうなっているのか?～
～若者の性行動とHIV/STD予防対策～

広島県地対協は、行政・医師会・大学が一緒になって県内の保健医療問題について研究したり協議したりする組織です。エイズの講演会が別紙のように、医師会館で開催されます。高田医師は、「HIV感染の危険を伝え早く感染を知って治療に結びつけることの大切さ」を話します。木原先生は膨大なデータを示しながら、価値判断を慎重に避けながら、最近の若者の性行動の実態を示します。

座談会「HIV/AIDSの治療の実際」

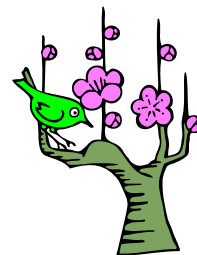
AIDS Clinical Care 日本語サマリー版 2001年11月特別号は、HIV感染症の「治療のトレンド」と「副作用・合併症の現状とその対策」について、日本の専門医4人による座談会をまとめたものです。多数の抗HIV薬が発売されて、「HIV感染者はエイズを発病しなくなった、エイズ患者の死亡者数が劇的に減った」という事実があります。素晴らしいことです。一方で、当初予想できなかったこと、長期治療に伴う困ったことも、問題になってきています。

県委託のHIV抗体検査事業

～拠点病院として本院も受託開始～

HIV抗体検査には4種類あります。無料で匿名の検査は保健所(保健センター)で行っています。全額自費診療：本人の希望です。これまでどおり保険を使わない(混合診療禁止)ので、そのためのカルテを作ります。保険診療：これまでどおり「HIV感染の疑い」で保険診療ができます。院内でも医師は端末からオーダーできます。当然ながら保険請求分は保険組合など保険者に回ります。県の受託事業：今回、本院と県との間で契約が成立しました。

を少し詳しく。これは保険診療の自己負担分相当額(1830円)は本人から徴収するけど、保険請求相当分はあとで県に請求する新しい国の事業です。つまり保険者には知らされません。火曜日と木曜日にエイズ医療対策室が原医研内科外来を使って担当します。ウェブサイトでお知らせするほか、パンフレットを外来ロビーに配布します。



<ご意見募集>

「AIDS UPDATE」は今後も不定期に発行します。ご意見やご希望がありましたら輸血部までお寄せ下さい。 [TAKATA, OE]
takata@aid-chushi.or.jp